

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 ライム			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 10日		～	2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数)	3人
○従業者評価実施期間	2025年 1月 10日		～	2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者意見より →「こどもの特性等に応じた専門性のある支援（Q5）」と「支援計画が客観的な分析に基づいて作成されている（Q7）」の両項目で高い評価が得られました。職員が日々の支援を通じてこどもを深く理解し、その情報をもとに特性や課題を丁寧に分析する姿勢が、的確な支援の実現に繋がっていると考えられます。	・職員間で日々の支援内容やこどもの様子について密に情報共有を行い、その内容をもとにこどもの特性や課題を客観的に分析しています。そうした分析を丁寧にまとめ、相談支援専門員に的確に引き継ぐことで、支援計画の質の向上と、こどもにとって最適な支援体制の構築に努めています。	・日々の支援記録における観察や分析の視点を職員間で共有し、情報の質をさらに高めています。また、保護者からの声も逐次共有し対応しており、今後もその体制を継続しつつ、相談支援専門員への引き継ぎにおいて、より的確で実効性のある連携を目指していきます。
2	利用者意見より →「職員から共感的に支援をされていると思いますか（Q17）」の項目において、すべての保護者から肯定的な回答が得られました。子どもの気持ちに寄り添い、安心できる関係づくりを大切にしたい、温かな支援体制が強みといえます。	・日々の支援の中で、こどもの感情の変化やサインに気づくことができるよう丁寧に観察を心がけています。また、こどもの気持ちに寄り添った声かけや関わり方を大切にし、安心できる関係づくりを意識しています。職員同士でも支援場面の振り返りを行い、共感的な対応の質を高めています。	・職員全員がこどもの気持ちに丁寧に寄り添うことができるよう、支援場面の振り返り等を通じて、共感的な関わり方への理解と実践力の向上を図っていきます。また、保護者とのやりとりにおいても、一層温かく丁寧な対応を心がけ、安心していただける関係づくりを継続していきます。
3	利用者意見より →「日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、共通理解ができていた（Q15）」の項目で全保護者から肯定的な回答が得られました。日々の丁寧な情報共有を通じて、家庭との連携を深めながら、安心して子どもを預けられる信頼関係を築いている点が強みです。	・送迎時の対話や連絡帳、写真付きの活動報告などを通じて、こどもの様子や変化を丁寧に伝えることを意識しています。保護者の声にも耳を傾け、些細なことでも気軽に話し合うことができる関係づくりを大切にしています。こうした積み重ねが、信頼関係の構築に繋がっています。	・日々の連絡や報告を通じた保護者との丁寧なコミュニケーションを今後も継続し、こどもの些細な変化にも気づきやすい体制づくりに努めていきます。また、保護者からの声にも柔軟に耳を傾け、双方向の信頼関係をより深めていくことができるよう、職員全体で意識を共有して取り組んでいきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者意見より →「保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか（Q11）」の設問において、「いいえ」の回答が確認されました。これにより、地域のこどもたちとの自然な関わりや集団での経験の機会が、十分とはいえない状況が見受けられます。	・当事業所の児童発達支援の利用頻度は週に1回程度であり、利用児は地域の保育園・幼稚園に通園している幼児が中心です。そのため、他の子どもたちとの交流の機会はすでに日常的に確保されていると考えられます。	・保育園や幼稚園での日常的な交流活動について、把握や共有を進め、保護者が子どもの療育による成長をより具体的に感じ取ることができるよう支援につなげていきます。また、園や学校での生活と当事業所の支援のつながりが保護者に伝わるよう、日々の対話や連絡を通じた情報共有を工夫していきます。
2	利用者意見より →「父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられているか（Q18）」の設問において、「いいえ」の回答が見られました。保護者同士のつながりを持つための自然な交流の機会が、十分に提供できていない点が課題として示されています。	・法人全体で利用家庭に呼びかけ「利用者・保護者・きょうだい」参加型の運動会を実施しています。 ・保護者のニーズが多様化しており、全ての家庭にとって必要性が高いとは限らないため、交流機会を限定しながら行っている。	・昨年度実施した家族参加型運動会のような保護者と利用児童が一緒に参加できる行事を、今後も定期的に開催できるよう検討し、保護者同士の交流の機会づくりに努めていきます。
3	利用者意見より →「非常災害の発生に備えた訓練が行われているか（Q24）」の設問において、「わからない」という回答が見られました。保護者にとって避難訓練等の実施状況が十分に伝わっておらず、災害時への備えに関する安心感に欠ける点が弱みとして捉えられます。	・避難訓練は毎年3月に定期実施しているものの、その後に入所された保護者にとっては実施状況を直接見る機会がなく、「わからない」という回答につながったと考えられます。	・毎年実施している避難訓練の様子や目的について、訓練に未参加のご家庭にも伝わるよう、写真付きのおたよりやSNS等を活用して積極的に情報共有を行っています。災害時への備えを可視化することで、保護者の安心感につなげていきたいと考えています。